

計算好き

会津に、美しい初夏しよかがやってきました。盆地ぼんちをめぐる山々に緑がよみがえり磐梯山が青空にくっきりと見えます。

盆地にそびえる鶴ヶ城つるがじょうには、ときどき初夏の風がゆるやかに吹きこんできます。

こののどかな風景とうってかわって、城内の一室ではけわしい顔をした三人の家老かろうが、沈み切っていました。そこには、重苦しい空気がただよっています。「うむ、こう日照りが続いたのではな。」

「田の水は枯れる。稲いねも育たない。年貢ねんぐはいつもの半分までいけばよいほうかもしれない。」